

平成20年度 岐阜県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
 兼東海・全国高等学校総合体育大会岐阜県予選会
 最終日：平成20年6月1日(日)
 会場：関わかくさプラザ

男子の部

<審判>

決勝リーグ 岐阜総合 91 $\left[\begin{array}{l} 28 - 6 \\ 28 - 27 \\ 23 - 16 \\ 12 - 18 \end{array} \right]$ 67 中津川工 室谷伸治・角平和優
 (2勝) (2敗)

両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。岐阜総合は、激しいディフェンスから速攻に走り、松井の3点シュート、長尾のジャンプシュート、伊藤のリバウンドシュートで次々に得点をあげる。中津川工は相手のディフェンスに圧倒されて、ミスが続く。第1ピリオドは岐阜総合が28-6と大きくリードする。第2ピリオド、岐阜総合は長尾のドライブや、岡島のジャンプシュートで加点する。中津川工もディフェンスをゾーンに変えてリズムをつかみ、和田井の3点シュート、田口のジャンプシュートなどで対抗し、互角の展開に持ち込む。前半は、岐阜総合が56-33とリードして折り返す。

第3ピリオド、岐阜総合は相手のゾーンディフェンスに対し、速いパスワークから田代の3点シュート、寺井のジャンプシュートで着実に得点をあげる。中津川工も和田井の3点シュート、谷本のジャンプシュートで対抗するも、点差は広がる。第4ピリオド、岐阜総合は全員ベンチメンバーに替えるが、早い展開で戦い、結局岐阜総合が91-67で快勝し、決勝リーグ2勝目をあげた。中津川工もベンチメンバーに替え必死に追い上げを図ったが、それまでの点差が大きかった。(吉福 司)

決勝リーグ 美濃加茂 81 $\left[\begin{array}{l} 17 - 23 \\ 14 - 17 \\ 19 - 17 \\ 31 - 12 \end{array} \right]$ 69 岐阜農林 大江裕之・西尾 司
 (1勝1敗) (1勝1敗)

美濃加茂オールコートマンツーマン、岐阜農林ハーフコートマンツーマンで始まる。前半は岐阜農林がペースをつかみ、速い展開から川崎、今井が次々と加点する。美濃加茂は宮嶋の3点シュート、インサイドプレーで応戦する。第2ピリオド、岐阜農林はディフェンスからリズムをつかみ着実に加点する。なかなかシュートの決まらない美濃加茂であったが、中村、高橋のミドルシュート、ゴール下シュートで追い上げる。前半は、40-31と岐阜農林が9点のリードで折り返す。

第3ピリオド、美濃加茂はハーフコート1-2-2ゾーンに切りかえて相手のミスを誘い、一気に3点差まで詰め寄る。岐阜農林も川崎のミドルシュートなどで対抗して、57-50と岐阜農林の7点リードで最終ピリオドを迎える。第4ピリオド、美濃加茂は2-3ゾーンディフェンスに変えて、相手に楽なシュートを打たせず、攻めては宮崎、横家のポストプレー、宮崎のミドルシュートで次々に得点をあげて、ついに逆転する。その後も石神のドライブから合わせのプレーで、小藺井、中村らがシュートを決め、リードを広げた。ディフェンスの頑張り、早い展開で第4ピリオドに31点をあげた美濃加茂が81-69で勝利し、決勝リーグを1勝1敗とした。(林 義貴)

決勝リーグ 岐阜総合 105 $\left[\begin{array}{l} 33 - 10 \\ 18 - 26 \\ 27 - 14 \\ 27 - 32 \end{array} \right]$ 82 岐阜農林 増田博徳・棚橋英一
 (3勝) (1勝2敗)

岐阜総合2勝、岐阜農林1勝1敗で迎えた決勝リーグ最終戦、両チームともハーフコートマンツーマンでスタートする。岐阜総合は激しいディフェンスから相手に思うように打たせず、確実なディフェンスリバウンドから、長尾の速攻や、松井の3点シュートで流れをつかみ、さらに伊藤がインサイドを支配して、岐阜総合が第1ピリオド33-10と大きくリードする。第2ピリオド、岐阜総合は田代の連続得点などで加点する。しかし岐阜農林は1-2-2ゾーンプレスからハーフ3-2ゾーンでリズムを変え、相手のミスを誘っては、滝沢の3点シュートや加藤崇の速攻などで次第に点差を詰めていく。前半は岐阜総合が51-36とリードする。

第3ピリオド、両チームともゾーンディフェンスで守るが、岐阜総合は 田代がこのピリオドだけで3点シュート2本を含む10点をあげる活躍を見せ、78-50としてほぼ勝利を決定づける。第4ピリオドも岐阜総合は 伊藤のポストシュート、 田代、 松井の3点シュートなどで着実に加点し、最後は105-82で勝利し、県総体の優勝を飾るとともに、3年ぶり4回目の全国総体の出場を決めた。岐阜農林も最後まで諦めず1-2-2プレスディフェンスでボールを奪うと、 高橋が4本の3点シュート、 川崎、 下瀬がシュートを決めて追い上げたが、前半の点差が響き、3位に終わった。(岩永英夫)

| | | | | | | |
|-------|----------------|----|---|----|--------------|-----------|
| 決勝リーグ | 美濃加茂 (2勝1敗) | 76 | $\begin{bmatrix} 16 - 29 \\ 19 - 8 \\ 22 - 19 \\ 19 - 18 \end{bmatrix}$ | 74 | 中津川工 (3敗) | 松野瑞穂・宮崎泰彦 |
|-------|----------------|----|---|----|--------------|-----------|

美濃加茂オールコートマンツーマン、中津川工3-2ゾーンでスタート。中津川工は 田口の外角シュート、 谷本のドライブを起点として攻め、オフェンスリバウンドを積極的に奪うと、得点に結びつけ、着実に得点をあげる。美濃加茂は 打江がゲームをコントロールし、 宮嶋、 加納がシュートを決めるが、相手のゾーンディフェンスに苦しみ、思うように得点できない。第1ピリオドは中津川工が29-16とリードする。第2ピリオド、美濃加茂が 中村、 小園井の活躍で次第に追い上げる。中津川工は6分間ノーゴールが響き、前半は中津川工が37-35とリードして折り返す。

第3ピリオド、美濃加茂は 宮嶋が2本の3点シュートを決め、 高橋、 中村のシュートも決まり、ついに57-56と逆転するも、中津川工は 谷本、 田口のシュートで対抗し、一步も引かない。第4ピリオドは一進一退の攻防となり、美濃加茂は 宮嶋、 高橋がシュートを決めれば、中津川工は 和田井、 原がシュートを決め、接戦のまま終盤を迎える。美濃加茂の2点リードで残り0.7秒、中津川工 田口がフリースローを得た。しかし2本とも外れ、そのままタイムアップ。息詰まる接戦を美濃加茂が76-74で制して、県総体2位となった。(鈴木雅雄)

女子の部

<審判>

| | | | | | | |
|-------|--------------|----|---|----|--------------|-----------|
| 決勝リーグ | 岐阜女子 (2勝) | 84 | $\begin{bmatrix} 22 - 7 \\ 22 - 13 \\ 23 - 12 \\ 17 - 18 \end{bmatrix}$ | 50 | 県岐阜商 (2敗) | 小森邦弘・清水 潤 |
|-------|--------------|----|---|----|--------------|-----------|

両チームマンツーマンディフェンスでスタートする。岐阜女子は 汪のポストプレーを中心に次々と得点を重ね、 森本、 中村のシュートも決まって22-7と第1ピリオドをリードする。県岐阜商は相手の厳しいディフェンスの前にミスが続き、思うように得点をあげられない。第2ピリオドに入っても岐阜女子は 汪、 中村、 森本のシュートが決まり、 宮部も速攻に走ってシュートを決め、試合の主導権を握る。県岐阜商はインサイドを固めるディフェンスで流れをつかみ、前田の3点シュートなどで追い上げを図る。前半は岐阜女子が44-20と大きくリードして折り返す。

第3ピリオドは両チームともベンチメンバーを次々に投入しての展開となる。岐阜女子は 岡田、 尾崎、 安江が次々とシュートを決めれば、県岐阜商は 森矢、 山田がシュートを決める。しかし、岐阜女子の優位は変わらない。第4ピリオドに入ると、岐阜女子 岡田、 松浦のシュートに対し、県岐阜商も 馬場の3点シュートなどで互角の展開となる。しかし、前半のリードを守りきった岐阜女子が、厳しいディフェンスと速い展開で終始優位にゲームを進め、最後は84-50で相手を下し、決勝リーグの2勝目をあげた。県岐阜商もチーム一丸となって必死のプレーを続けたが、出だしのミスが響いた。(杉山博宣)

| | | | | | | |
|-------|-------------|----|---|----|--------------|-----------|
| 決勝リーグ | 高山西 (2勝) | 72 | $\begin{bmatrix} 14 - 23 \\ 20 - 9 \\ 17 - 15 \\ 21 - 18 \end{bmatrix}$ | 65 | 岐阜総合 (2敗) | 三浦 潔・長屋 貴 |
|-------|-------------|----|---|----|--------------|-----------|

立ち上がり両チームマンツーマンディフェンスでスタート。序盤両チームとも速い攻防を繰り広げる。岐阜総合は 前田の1対1を起点に流れを作り、 澤田、 尾関がタイミングのよいシュートを決めリードする。高山西も 武のポストプレー、リバウンドシュートで食い下がる。第1ピリオドは岐阜総合が24-14とリードを奪う。第2ピリオドに入ると、高山西がゾーンディフェンスに変えて変化をみせ、攻めではインサイド中心に展開し、 陳、 井上の3点シュートで逆転に成功し、高山西が34-32と前半をリードして折り返す。

第3ピリオドに入っても高山西は 武のゴール下シュートで着実に加点し、 原のジャンプシュートも決まって主導権を渡さない。岐阜総合は1-1-3のゾーンディフェンスでリズムを変化させ速攻に持ち込んで 前田、 澤田の3点シュートで追い上げる。高山西4点リードで最終ピリオドに入る。両チーム一進一退の攻防で、高山西が 武のゴール下シュート、 井川のジャンプシュートを決めれば、岐阜総合も 前田の3点シュートで追い上げ、さらに 下里が速攻を決めて4点差まで詰め寄る。しかし、そこから高山西は 井上が落ち着いてジャンプシュートを決め、 武もリバウンドシュートをねじ込み、高山西が72-65で接戦を制して、決勝リーグ2勝目をあげた。岐阜総合も激しいゾーンプレスで最後まであきらめずボールを追い 澤田が3点シュートを決めたが、追い上げきれなかった。(廣瀬卓哉)

| | | | | | | |
|-------|--------------|----|--|----|---------------|-----------|
| 決勝リーグ | 岐阜女子 (3勝) | 82 | $\begin{bmatrix} 17 - 11 \\ 15 - 11 \\ 31 - 15 \\ 19 - 10 \end{bmatrix}$ | 47 | 高山西 (2勝1敗) | 相宮俊郎・山田祐治 |
|-------|--------------|----|--|----|---------------|-----------|

連戦の疲れからか、お互いにボールコントロールがままならず、なかなかシュートまで至らない。そんな中岐阜女子は、ディフェンスのプレッシャーを強め、 中村早のスティールからの速攻で何とか流れをつかもうとする。対する高山西は素速いヘルプディフェンスで相手にプレッシャーをかけ、リバウンドボールを確実にものにして、速攻からのランニングプレーで得点を重ねる。第1ピリオドは、岐阜女子が17-11とリードする。第2ピリオドに入ってもお互いにオフェンスのリズムが悪く、苦しい体勢のシュートで終わることが多い。膠着状態のまま試合が進み、岐阜女子が32-22と10点リードして前半を終了する。

後半に入ると、岐阜女子は 上原が冷静にゲームをコントロールし、本来の姿を見せ始める。流れをつかんだ岐阜女子が 上原のドライブ、 岡田の3点シュートで得点を重ねていく。高山西はボールへの素速い反応でルーズボール、リバウンドと頑張りを見せるが、肝心なところでシュートが決まらず、点差が開き始める。結局、後半にオフェンスを立て直した岐阜女子が82-47と勝利して15年連続17回目の優勝を飾り、全国総体への出場を決めた。高山西も 垣内、 原らが粘り強く攻めたが、追い上げられなかった。(田中昭博)

| | | | | | | |
|-------|----------------|----|--|----|--------------|------------|
| 決勝リーグ | 県岐阜商 (1勝2敗) | 49 | $\begin{bmatrix} 13 - 9 \\ 18 - 16 \\ 13 - 11 \\ 5 - 12 \end{bmatrix}$ | 48 | 岐阜総合 (3敗) | 菅野 浩・赤石恵美子 |
|-------|----------------|----|--|----|--------------|------------|

互いにハーフコートマンツーマンでスタートする。県岐阜商は 羽賀のポストプレーを軸に、岐阜総合は 前田のドライブや3点シュートを起点に得点をあげようとするが、共に相手のディフェンスを崩せず、第1ピリオドは県岐阜商が13-9とリードするロースコアの展開。第2ピリオド、県岐阜商は 渡邊の3点シュートが決まるとオフェンスのリズムがよくなり、 宮ノ脇のリバウンドシュートが3連続で決まり、前半は31-25と県岐阜商がリードする。岐阜総合も 澤田、 日比の3点シュートが決まるが、ターンオーバーが多い。

第3ピリオド、県岐阜商は冷静にボールを運び、 前田、 山田がシュートを決める。岐阜総合はディフェンスをゾーンプレスに変え、プレッシャーをかけるが、相手の激しいマンツーマンディフェンスに突破口を見出せず、24秒バイオレーションが続き、次第に点差が開いていく。第4ピリオド、県岐阜商は相手のゾーンプレスにオフェンスのリズムが狂い、得点をあげられない。対する岐阜総合は、 日比が3点シュート、ドライブと活躍し、点差をつめていく。残り20秒岐阜総合は、 日比がインターセプトから速攻を決め、ついに1点差とする。しかし県岐阜商はあわてずにボールをコントロールしてタイムアップ。最後までディフェンスで粘り強く守った県岐阜商が49-48とからくも1点差で逃げ切り、東海大会出場権を得た。(川上亮輔)